

山行記録

湖北・野鳥センター、山本山

年 月 日	2019 年 12 月 16 日
天 気	快晴
集合場所・時間	JR 芦屋 7:55
参加人数	20 名
歩行時間・距離	2 時間 10 分、7.9Km
費 用	3,200 円（青春切符、タ クシー、入館料）円

コースタイム

（河毛駅からタクシーで野鳥センターへ、センター内見学）

野鳥センター 11:30～材ツ観察ポイントで材ツ観察 11:50/12:05。ここで山本山登山組と野鳥観察組に分かれる。

登山組：観察ポイント 12:05～宇賀神社登山口 12:15/12:20～休憩 12:40/12:45～山本山、ランチ 12:56/13:29～朝日山登山口 13:56/14:08～河毛駅 15:06 着

感 想

JR 宝塚線の事故で参加不可の人や 1 時間遅れの人たちが出たが、20 名の内 16 名が 11 時前には野鳥センターに到着。センター内には望遠鏡、双眼鏡が何台もセッティングされていて、琵琶湖側の水鳥や反対側の山本山にいる材ツの観察（白い点でしか見えない）ができるようになっている。天気も最高、外に出て山本山の麓へ材ツ（通称山本山のおばあちゃん）の観察に出かける。遅れ組もこの頃到着した。20 分も歩くと山本山の麓に到着、たくさんの人が高精度の望遠鏡やカメラで材ツを狙っている。皆さん材ツの羽ばたく姿を期待ですが、彼女は動かず。高精度の望遠鏡を覗かせてもらったが、黄色い羽や白い羽がクッキリと見え、感激、感激！ここで登山組と観察組に分かれた。

（登山組）：観察点から登山口へ移動、登山口からは 40 分弱で頂上に到着、多少の木々があるが琵琶湖の眺めは良好、温かい日差しの下でランチタイム。下山は朝日山登山口へ。そこから道路を歩いて 1 時間ほどで河毛駅着。

（観察組）：湖北 山本山の材ツ。観察組は男性 3 名、女性 4 名でした。材ツは日本に棲息するツ類の中で最大。湖北に毎年来る雌は全長 102cm 翼開長 245cm もある。ツ類は通常雌の方が雄より一回り大きい。林ツ海沿岸で繁殖し日本には冬鳥として南下してくる。多くは北海道の沿岸に集まるが湖北は材ツが飛来する南限の地です。湖北の材ツは初代が 1991 年 1 月に飛来して 2003 年 1 月に事故死した。直後の 1 月 13 日に今の二代目がやって来た。毎年 11 月中旬に来て 2 月末に林ツ海沿岸に戻り子育てを行う。飛来すると琵琶湖の見える山本山の西斜面の樹上に四六時中陣取り 1 日 1-2 回琵琶湖に狩に出かける。獲物は主に大型魚類で 時には材ハンや豚類も狙う。今日は残念ながら狩をしない日に当たった様で雄大な飛翔の姿がみられなかったが、好天に恵まれ白い肩羽と尾羽、大きな湾曲した黄色の嘴がはっきりと観察できた。しかし雪が樹木に積るとどれが材ツか見分けられない。冬の湖北の三羽がらすは材ツを含めてコウチヨと材ヒツイ、水鳥のコウチヨと材ヒツイは野鳥観察センターの二階からじっくり観察できた。コウチヨは約 300 羽 材ヒツイは約 60 羽が湖畔で休憩中の様だった。午後からは余呉川に沿って田畑を廻ったが 野鳥のお昼休みか意外と少なく モズ、キジバト、ダイサギ、アサギ、トビ、ムクドリ、スズメ、ハシボソガラス しか見られなかった。

以上